

特別講演会
(国際セミナー)

子育て世代のワーク・ファミリー・バランス —どうすれば育児におけるジェンダー平等が進むのか—

Work-Family Balance of Families with Small Children:
How to Achieve Gender Equality in Parenting

開催日時: 2015年9月3日(木) 14時~17時

会場: 国立社会保障・人口問題研究所 第4・5会議室

本セミナーでは、ワーク・ライフ・バランスの実現度が高いとされる、スウェーデン、オランダ、ドイツの3カ国から第一線で活躍する専門家を招き、各国の子育て世代の仕事と家庭生活を取り巻く状況について報告します。男性の育児へのコミットメントを高め、男女双方が仕事と家庭を両立でき、人として尊厳あるバランスのとれた生活を実現するための有効策を探っていきます。

講師:

バーバラ・ホブソン氏 Barbara Hobson

ストックホルム大学社会科学科教授

ローラ・デンドゥルク氏 Laura den Dulk

エラスムス・ロッテルダム大学行政学科准教授

エバーハルト・シェイファー氏 Eberhard Schaefer

ベルリン父親センター代表



使用言語: 英語 (逐次通訳あり)

参加無料

参加申し込み: tokubetsu@ipss.go.jp

共催: 国立社会保障・人口問題研究所
ワーク・ファミリー・バランス国際比較研究会

講師

バーバラ・ホブソン氏 Barbara Hobson

ストックホルム大学社会科学教授

ジェンダーと社会政策の国際比較研究の第一人者で、市民権、男性論と多岐に渡る研究を行ってきた。国際ジャーナル *Social Politics* の創始者で、長年、編集委員長を務める。近年は、ケイパビリティ・アプローチによる女性のエンパワーメントと子育て、父親とワーク・ライフ・バランス研究に従事。スウェーデンとスペインにおける移民とケア・家事労働に関する研究にも携わる。

主な著書（編著） *Worklife Balance: The Agency & Capabilities Gap* (Oxford Univ. Press, 2014) , *Making Men into Fathers: Men, Masculinities and the Social Politics of Fatherhood* (Cambridge Univ. Press. 2002).

ローラ・デンドルク氏 Laura den Dulk

エラスムス・ロッテルダム大学行政学科准教授・社会学者

福祉諸国の職場・組織におけるワーク・ライフ・バランス施策の比較研究を行っている。近年は、公共セクターでのWLBに果たす管理職の役割、自営業者のWLB、欧州の職場のソーシャル・クオリティに関する研究活動に従事。国際ジャーナル *Community, Work and Family* 編集委員。

主な著書（編著） *Quality of Life and Work: Theory, Policy and Practice* (Palgrave, 2011).

エバーハルト・シェイファー氏 Eberhard Schaefer

Väterzentrum (ベルリン父親センター) 代表

ベルリンで非営利団体を創設し、育児中の男性を対象としたカフェの運営やシングルファーザーへのコンサルタント業務を行っている。年間4,000人にも上る父親や子どもに接し、近年変化の著しいドイツにおける男性のライフスタイルのあり方を提唱している。

会場へのアクセス：

東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル6F

国立社会保障・人口問題研究所

第4・5会議室

都営三田線「内幸町」A6出口から徒歩3分

営団丸の内線「霞ヶ関」B2出口から徒歩7分

営団日比谷線「霞ヶ関」A10出口から徒歩7分

営団千代田線「霞ヶ関」C4出口から徒歩5分



本セミナーは、平成24年度～27年度科学研究費補助金（基盤研究（B）課題番号：24330153）の助成による「グローバル化時代の日本男性のワーク・ファミリー・バランスに関する研究」（研究代表者：高橋美恵子・大阪大学、研究分担者：釜野さおり・国立社会保障・人口問題研究所、斧出節子・京都華頂大学、松田智子・佛教大学、善積京子・追手門学院大学）の一環を成す。